

ABCP for rare mutation :

希少ドライバー遺伝子変異陽性肺癌に対する免疫化学療法の効果

1. 研究の対象

2018 年 1 月から 2023 年 12 月に大阪国際がんセンターでアテゾリズマブ＋ペバシズマブ＋カルボプラチン＋パクリタキセル(ABCP)療法を行った方

2. 研究の概要

近年、非小細胞肺癌の治療は、希少ドライバー遺伝子変異が多数発見され、各遺伝子変異に対して阻害剤が開発され実地臨床で使用出来るようになり、その有効性が確立されています。しかし、必ず耐性になることも事実であり、獲得耐性後の治療の確立が課題です。

肺癌においては、免疫療法の有効性も確立されています。希少ドライバー遺伝子変異陽性肺癌では、PD-L1 染色が高発現している場合もあり、発現強度は様々です。しかし、ドライバー遺伝子変異陽性肺癌は陰性例と比べ、免疫療法単剤治療の効果が発揮されにくいとの報告があります。一方、IMpower150 試験にて、ABCP 療法は、EGFR 遺伝子変異や KRAS 変異に対して、標準化学療法と比較して優れた成績を出していることが報告されています。このため、ABCP 療法は希少ドライバー遺伝子阻害剤治療の耐性後に有効である可能性が考えられ、ABCP 療法の有効性・安全性について評価します。

研究期間： 総長の研究実施許可日～2026 年 3 月 31 日

研究目的： ABCP 療法は希少ドライバー遺伝子阻害剤治療の耐性後に有効である可能性が考えられ、ABCP 療法の有効性・安全性について評価します。

研究方法： 背景因子や効果や副作用の情報をもとに ABCP 療法の安全性・有効性を評価します。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：病歴、抗がん剤治療の治療歴、ABCP 療法の副作用等の発生状況、ABCP 療法の効果など

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

研究責任者：

大阪国際がんセンター 呼吸器内科 田宮 基裕

住所：〒541-8567 大阪市中央区大手前3-1-69

電話：06-6945-1181

-----以上